

参考資料 5

登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォームでは、令和8年3月の「未来ビジョン」策定を目指して活動をしています。
市民の意見が反映された未来ビジョンにするため、様々なワークショップを通じて登戸の未来について話し合っています。
市管理用地の活用と運営について、市民の声を抜粋して下記に示します。

【市管理用地の運営について】

- これまで、区画整理中の暫定的な空地を活用して市民発意の取組み（小さな挑戦）が生まれる活気のある状態となっていた。今後もその活気のある状態を続けたい。
- まちなかの公共空間等で、マルシェ、音楽・アート・本などの文化イベントなど、定期的なイベントを実施したい。
- まちなかの公共空間等で、より日常的な自主活動（物販、展示、紙芝居…）を行えるようにするためのツール（屋台など）をつくりたい。日常的に公共空間等を使いこなしてゆくことで、地域内の交流の拠点としたい。
- まちなかの公共空間や未利用地を小さなみどりの拠点にする。花や緑を楽しむことに加えて、収穫・製品化・ブランディング・販売などのプロセスに大人と子どもが一緒に取り組めるとよい。例えば、ひまわりを植えて、種から油やクリームなどの製品を作るなど。
- 安価に間借りできて、新しい小商いにトライできる場所（チャレンジショップ）を作りたい。

→**まちのプレイヤーが空地・道路・公園などの公共空間等を使った小さな挑戦を起こしやすい環境づくりが求められている。具体的には、マルシェやイベント等の定期的な開催、日常的な自主活動を支えるツールや仕組みの整備、みどりの拠点とした活用、チャレンジショップの設置等、多様な市民発意の取組を通じて地域内交流と活気を促進したい。**

【市管理用地の活用について】

- 市民が公共空間・市管理用地を使えるよう、手続・保険・使用料を明確化したガイドと、申請の一本化窓口が必要。ハンドブック配布からエリプラの申請代行まで段階的に展開し、相談先の可視化で障壁を下げ試行から常設へ。

→**まちを使うためのガイドライン作成とワンストップ申請が可能な窓口機能を持つ組織体制の整備が求められている。**